

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー	ユニット名	
所在地	宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成27年8月29日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年10月6日	評価確定日	平成27年11月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員になり6年が経ちました。地域行事の参加はますます盛んになり地域のボランティアサークルより手作りの品物や、季節ごとの飾り物を頂きご入居者様も喜んで頂いております。一昨年より毎年9月に地域の敬老会への参加も開始、当初は1名でしたが今年は3名の参加で鐘崎の国民宿舎へ会食会に行くようにしています。事業所行事では毎年参加者が増え、家族会や地域交流も一段と活発になってきました。裏庭の野菜づくりは定着しており、毎年品種も増え、今年は6種の野菜で苗植え、水やり、収穫などを入居者の方々に手伝って頂き、管理栄養士の手でメニューに入れて食の楽しみの一つとして今後も継続していきたいと思っております。

宗像市平井にある「ファミリー」は、管理者を中心に職員の結束を強めてこられた。系列施設とも連携し、一緒に研修を受ける機会を作り、統括マネージャーやサブマネージャー等の幹部の方々とも情報交換を続けながら、理念にある「心からのケアを提供する為に知識の習得と技術の研鑽」に努めている。季節行事も大切にされており、季節に応じたお弁当(運動会弁当・アジサイ弁当・七夕弁当・コスモス弁当など)を楽しまれ、お花見などにも行かれています。ご利用者と一緒にケーキを作られたり、若い時に畑仕事をしていた方には裏庭で野菜作りをして頂いている。毎日のリハビリも継続し、朝10時からのリハビリ体操は全員で行っている。「ファミリー」での生活が終了される時は、ホームで過ごされた思い出の写真集をお渡ししている。日々「心のふれあいを大切に」、ご利用者と家族、地域の方々の方々の笑顔を引き出す取り組みを続けているホームであった。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念に基づき事例を伝達し理念共有できるように心掛けている。	「心のふれあいを大切にする“家族”…」という理念を大切にされており、「安心、安全」な生活ができるように介護計画を作成している。新しい職員にも理念を伝え、ご本人と家族の時間を大切にすると共に、四季折々の外出に出かけている。	統括や管理者は、「尊厳」「自立支援」「地域の方と共に」などの言葉を職員に伝えている。「安心、安全」という意味も含め、今後も理念の在り方を検討していきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域公民館でボランティア活動をしている方より手作りの折り紙や飾り物を頂いている。	地域の夏祭りや敬老会に参加し、地域の方と過ごされている。ホーム主催の夏祭りにも家族や地域の方が来て下さり、地域の方から手作りの飾り物なども頂いた。秋の音楽祭では、ボランティアの方がハモニカ演奏をして下さり、楽しいひと時となった。	平井地区子供会の子供神輿がホームに来て下さり、ご利用者も喜ばれている。今後も引き続き、地域の学校行事や幼稚園行事の参加を含め、子供達との交流を増やしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や地区からの介護相談や見学が増えてきている。運営推進会議の内容等が地区の会議等で報告されている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の高齢者情報や家族介護等の情報交換や地域行事の連絡等により参加が増え地域交流が活発になった。	会議では状況報告や行事報告等を行うと共に、外部評価結果も報告し、励ましのお言葉を頂いている。グランドゴルフ等を含めて、地域の情報交換の場になっており、地区の会議等で運営推進会議の内容を報告して下さっている。	地域の方の協力体制が深くなっており、管理者等も感謝の思いを伝えている。高齢化が進んでいる地域でもあり、今後も住み慣れた地域で暮らせるように、地域の課題を踏まえた対策の検討を続けていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は事業所の空室情報や待機者の状況を報告している。日頃から市の窓口を訪れたり運営推進会議を通じて密に連絡を取っている。	市の職員とは顔馴染みであり、ホームの取り組みも理解して下さっている。「地域密着ネットワークむなかた」に統括や管理者が出席し、市の職員や他事業所の方々と意見交換をしている。今後も地域包括ケアに向けた連携を続けていく予定である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含め4名の職員が実践者研修を受けてます。更にミーティングを通じ職員に教育している。玄関施錠については意味を理解してもらい、いつでも外出が出来るケアに取り組んでいる。	ご利用者のペースに応じた生活ができるようにしている。お気持ちが不穏になられる場合は原因分析を行い、主治医からのアドバイスも頂いている。「外に出たい」という思いも大切に、時間を決めて玄関を開放しており、お花の水やりや野菜の収穫で、中庭に出る回数を増やしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と計画作成担当の2名は虐待防止の研修を受けている。ミーティングでは伝達研修を実施し、OJTの中で徹底している。			

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者3名が成年後見人制度を活用されており、管理者が研修に参加して勉強しておりホーム内にも資料を常設していつでも閲覧出来る様にしている。後見人の面会時には情報交換をしている。	ご利用者の後見人や市役所の保護課の方との話し合いを密に続けており、統括や管理者等が制度利用の必要性を個別に検討している。地域包括主催の権利擁護研修に参加し、伝達研修をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に締結、解約又は改定等は説明を行いご家族の不安、疑問点などは契約時点でお答えしている。その後については電話にて解決回答できるように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日勤中心の勤務となり面会時にご意見、ご要望を受ける機会が多くなりマネジャーへの相談のうえ支援に反映させるとともにご意見・苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ助言を頂き改善できる仕組みを作っている。	家族の面会は増えており、日々の暮らしぶりや健康状態等を報告し、要望を伺っている。遠方の方などもおられ、電話で情報交換している。「脳トレしてほしい」「家族の所に連れて行ってほしい」等の要望もあり、介護計画に盛り込んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見や提案を聞きミーティング等を通じ議題として挙げ、合議制にて改善できる仕組みを作り上げている、又身近な課題は申し送りの時に話し合っている。	管理者が中心になり、職員の要望などを確認している。季節行事や飾り付け等の職員のアイデアは多く、ご利用者と一緒に楽しむ姿勢が見られている。27年4月から新しい看護主任が勤務しており、介護職・看護職・管理栄養士等の視点を共有し、情報交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用を行っている。又資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたっては性別・年齢・宗教等を理由に採用対象から外すことはしていない。個人の能力を見極め仕事量の配慮をしている。パソコンの得意な方野菜づくりが得意な方等得意分野を把握し力を發揮していただいている。	職員の紹介で応募して来られる方が多く、統括が面接している。採用時も採用後も職員の個性を大切にすると共に、「尊厳」「自立支援」の姿勢も見極めている。系列施設での研修も行われ、職員の視野を広げる機会になっており、複数の幹部に相談できる体制もできている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が人権尊重の大切さを職員に伝えているミーティング時には統括マネジャーによる人権、倫理に対する研修を実施、その後は人権を尊重することを職員で話し合っている。	ご本人の横に座って言葉を大切に受容し、待つケアを実践するよう、管理者が職員に伝えている。ご本人のペースに合わせた支援が行われ、ご利用者の想いや意思を丁寧に確認し、意思決定を大切にした声かけを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている、参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は21年度より「地域密着ネットむなかつ」の連絡会に参加して勉強会、相互訪問情報交換会、研究発表など活動してきました。本年度も引き続き活動しサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接の中で本人・家族の意向を聞き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用、ご本人の思いや、不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いが難しく日々関わることで信頼関係を築き安心して生活で切る支援を職員全員が共有できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当者会議を管理者、ケアマネジャー、看護師とご家族で開催している、その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有の中で支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に担当者会議にてご本人ご家族の要望を伺いすべてを受容することでまずご本人・ご家族の要望を支援の方針としている。若い時畑仕事をしていただけ方には裏庭で野菜作りに苗から収穫までお手伝いをして頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝10時から、全員集まっていたいただき、朝の挨拶から日付の確認、当日のスケジュール等を報告してラジオ体操、ストレッチ、レクレーションに参加していただくことで、全職員と信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者は面会時に近況報告、職員はできる限りご本人のエピソードや出来事などご家族と会話ができるようにし、ご一緒にレクに参加して頂いたり、一緒に散歩や外出に出かけ、共に本人の支えになれるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	婦人会の会長をしていた時のメンバーがご家族の連絡で面会に来られ行事に参加して頂いたり居室で昔のアルバムを見てなつかしまれたりされました。今後も行事に参加の依頼や、日頃の面会をお願いいたしました。	農家をされていた方もおられ、系列施設などにドライブする時の田園風景を楽しまれたり、家族と一緒に墓参りや自宅に行かれている。地域のお祭りの時に馴染みの方と再会されたり、馴染みの方の面会も増えており、知人の方々と居室で過ごされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時からの朝のリハビリ体操は全員揃って参加され顔が見渡せる環境で実施されています。午後2時からは各ユニットごとで出来るレクリエーションをすることでご利用者同士が関わりあえる時間帯にしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にここで過ごされた思い出の写真集をお渡ししています。その後も相談にいつでも応じれるようにご家族へお約束しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基ずくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや意向の把握に努めている、特に意思疎通の困難な方たちの思いの把握が難しいが、職員同士で把握できている。内容や量にも差がある為、ミーティングの場を活用し職員全員で共有できるようにしている。	ご利用者の生活歴や趣味等を伺い、センター方式に記録しており、体調などの変化に応じて、ペンの色を変えている。意思疎通が困難な方にも声かけを増やし、表情や言葉を個別日誌等に記録している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時カンファレンスで生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過は常にカンファレンスし記録されているので全職員が把握している個人ファイルにケアプランを入れているため。変化の把握にも努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートのD1、D2、C1-2シートの活用し本人の心身状況を把握している、担当職員と担当ケアマネジャーで週間、日課計画を作成し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議においてご家族からご主人(父)が近隣の施設に入所しており、面会したいが介助が出来ないので職員の付き添いしてもらいたいとの要望があり、ご本人も面会希望が強いのでプランに反映しました。	心身機能の維持向上を目指しており、レクやリハビリ、体操、ことわざゲーム等を取り入れている。トイレでの排泄や食事等の日常生活の支援内容と共に、畑仕事や買い物などの役割や楽しみも盛り込まれ、日課を壁に貼っている方もおられる。	今後も3表(日課表)などを活用し、24時間全般の支援内容を(ご本人のできる事も含めて)明記すると共に、家族と外泊する時などにも活用して頂く予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく把握できるように、ユニット毎の記録から個別に細分化した記録方法も変更してきました。その結果アセスメントも細分化でき介護計画の見直しに役にたっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のお買い物以外に事業所の食材買出しにスーパーまで一緒に出掛けました。同法人のイベント(餅つき大会)や同地区の事業所の行事に参加をしました。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で開催される盆踊りや、夏祭り参加をすることで地域の方と楽しむことが出来ました。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	10年間の協力医として、支えて頂いている。担当外の内容にも相談ができ、適切な処置や他の医療機関への紹介など長きにわたって良い関係を保っている。ご家族も納得され安心して受診、往診を任されている。	受診は主に管理者等が行い、主治医との情報交換を続けている。定期的な往診もあり、適宜アドバイスを頂くと共に、必要に応じて専門医の紹介をして下さっている。24時間体制でホームの看護師に連絡でき、職員の観察力も高まっており、早期発見に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者と看護師は連携をとりご利用者様に適切な看護が受けられるように支援が出来る、不在時は看護の申し送りノートにて日々の気づきを報告できるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の準備物及びその後の洗濯物等はすべて事業所の方で対応して、ご本人、ご家族は安心して治療に専念できるようにしています。面会時や往診時には主治医と情報交換にて早期退院できるように努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態が変わった場合、重度化した時にどう対応するか、管理者、看護師がご利用者ご家族と話し合い、状況に応じては医師への相談も行っている。入居時ホームで終末期を迎えたいと希望されていてもその後状況が悪化した場合入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをして意思の確認を行っている。	終末期の指針を契約時に説明し、意向確認を行っている。体調に応じて、主治医から「治療や入院の必要性に関する説明」が行われ、その時々意向確認を続けている。「ここで最期まで」と希望される方も多く、食事や排泄、入浴支援など、温かいケアを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに基づき全職員の教育を実施しました。又応急手当について看護師より初期対応及び発生時にOJTとして訓練をおこなっているが協力医療機関から感染症についての勉強会や研修会などは出来る限り一般職員も参加していただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導の訓練については、火災のみならず、地震、水害を想定をしている。平井区の公民館は日頃から利用しているので全職員は最短の距離を熟知している。	2階から滑り台を使用して訓練が行われている。福祉委員や民生委員の方、市の職員の方々が、避難誘導時の見守りをして下さり、災害時の協力依頼をしている。災害に備えて食料と飲料水を確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており、「こころの抑制」をしないようにミーティングや申し送りを通じ話し合っている。特に介護途中の声掛けは優しい口調をするように全職員には伝達している。	ご利用者のペースを大切に、日々「待つケア」が行われている。ご利用者の目線で声かけし、羞恥心への配慮も続けている。時に語尾が強くなる時もあり、お互いに注意できる環境作りに努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に希望を確認している。リハビリやレクレーションの時間に問いかけを増やし、希望や思いは出来る限り早く実現できるようにしている。散歩、買い物等。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活スタイルを大切にしている。ご入居者様同士で会話をされる方、TVをみられる方、読書をされる方等、理解困難なご入居者様は週間日課表に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後と毎週土曜日には「おしゃれな日」に設定して爪切を実施している。散髪は2カ月に1回福祉理美容サービスより出張にておこなっている。事業所内行事や外出行事の時はお化粧品やマニキュアをして頂くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が一緒に楽しく食事が出来る様に揃った段階でスタートするようにしている。食事形態もそれぞれで変えて、丼物が嫌いな方は主食と副食に分けて盛り付けするなど好みの希望を聞くようにしている。	管理栄養士が勤務し、栄養バランスやカロリー計算も行われている。旬の料理も作られ、刻み食の方には魚の形に盛り付けるなど、食材がわかる工夫も続けている。ご利用者も下ごしらえや下膳など手伝って下さり、買い物と一緒にいられる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリー計算をしながらメニューを作っている。生活歴や残食の状況から好みものを把握し月1回給食会議にて改善提案を行っている。摂取量に制限がある方は容器の大きさや食事量を変えたり嚥下咀嚼力に合わせた食事形態にしている。食事水分量のチェックにより医療との連携も実施あしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者おひとりにお合わせた口腔ケアを実施している。入歯を使用している方は毎週土曜日にポリデント洗浄をしている。居宅管理指導で月4回の歯科往診と毎朝のリハビリの時間に口腔ケア体操をするようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のリハビリの時間に足踏みや立位訓練、屈伸運動をマニュアルとして取り入れて昼間のトイレ排泄を誘導する事で、特に夜間のパット対応からポータブルやトイレ使用に切り替えていっている。	布の下着を使用して自立している方もおられる。トイレでの排泄を大切にしており、日々の立位訓練を続けている。立位が難しい方も2人介助でトイレでの排泄に繋げており、今後も、ご本人の心身状況(疲労や痛みなど)に応じて、ケアの在り方の検討を続けていく予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表にて水分不足の入居者様には24時間通して水分補給をして頂くようにしている。お茶が苦手な入居者様は色んな味のゼリーを作り摂取していただくようにしている。便秘の続く時は主治医と相談のうえ薬の処方をして頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の内、汚染があるときは曜日関係なく入浴する体制にしている。時間は現在は決まった時間にしているが、ご入居者の希望時間を聞いたうえでローテーションの変更や時間を考慮するようにしたい。	入浴好きの方も多く、職員との会話を楽しまれている。職員は同性介助の希望に応じており、入浴を嫌がられる場合は時間を変える等、個別支援が行われている。家族に頂いた「橙(だいだい)」を湯船に浮かべたり、全員の方に柚子湯に入ってもらえるように、入浴日の調整もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に入眠時間は定めてなく夕食後は居室でTVを見られる方や読書をされる方など、それぞれご自分のペースで自由に過ごすように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一人ひとりの薬の管理をしており、症状変化やコントロール薬についても主治医と連携で服薬支援をしている。		



自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後のレクリエーションの時間を利用して庭の野菜収穫に出たり、散歩や天気の良い日は中庭でお茶会している、又食材の買い物の手伝いにスーパーへ出かける事もある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩はいつでも散歩できるようにしている。ご本人の希望でご主人の入居先に面会に行きたいとの要望でご家族と一緒に職員と一緒に外出支援をしている。	地域のお祭りや系列施設の行事に参加している。地元の敬老会の参加も恒例で、25年度は3名の方が参加された。お買物が好きな方は食材購入の手伝いでスーパーに行かれたり、野菜作りの好きな方は裏庭に苗を植えて楽しんでいる。桜や秋桜、菊花展など季節の花見に出かけたり、回転寿司やジョイフルで外食をされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と受診介助をされているご入居者様は毎回ご自分の持っているお金でお菓子や飴玉を購入している。その他のお金の使い道については事業所の夏祭りで独自の紙幣を通貨として使用でき買い物感覚を体験できる行事にしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいるご家族から電話の取次ぎの依頼がありいつでも受けられるように支援している。また毎週面会に来られるご家族でその日の様子を日記としてノートにつづっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの演出を職員の手作りとご入居者様と一緒に制作するなどレクの中に取り入れられている。桜の花びら、アジサイの花、七夕の短冊など作って頂いたものをホールや玄関に飾りつけて季節感を打ち出している。	玄関やリビングには四季に応じた作品や行事の写真が飾られ、家族の方との会話のきっかけになっている。地域の方の作品も飾られ、地域交流の場になっている。リビングには台所や洗面所が隣接しており、車いすの方もおられるため、ご利用者が移動しやすい工夫を続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で一人の空間をたのしんだり食堂やホールで語り合ったりする時間は自由に出る様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時にご家族の方へはご相談しているので居室内にはなじみの物が入っている。ご本人の意向で徐々に増えていっている	ベッドなどはホームの備え付けである。各居室には曾孫さんが描かれた絵や家族等の写真を飾り、馴染みの椅子やテーブルを置かれたり、畳を敷いて布団で休まれる方もおられる。仏壇の前で手を合わせる方や、家族が持参した毛糸で編み物をされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂、トイレは大きく案内表示しており、自立に向けた環境にしている。食事時間の表示や日課表を居室に添付して自立に向けた行動が出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				